

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.51 - 2013年3月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



サ

レジオ会員の皆さん、サレジオ・ミッションの友人の皆さん！

信仰年の歩みの中、2013年

の四旬節のさなか、心からのあいさつを送ります！ 毎年同じようにたどる主の過越に向かう歩みの中で、私たちは十字架の道行を行い、救いの代価を黙想します。毎年3月24日（エルサルバドル、サンサルバドルのオスカル・ロメロ大司教殉教の日）、**私たちは福音のために今日も命を捧げている宣教師殉教者を記念して祈りと断食を捧げます。**教皇庁福音宣教省は、福音のために命を落とした司牧奉仕者たちのリストを毎年出版します。毎年、多くのキリスト者が迫害され、イエス・キリストへの信仰のために命を奪われる人さえいることを私たちは知っています。毎年、少なくとも10万人のキリスト者がイエス・キリストのあかし人となっています：ナイジェリア、パキスタン、北アフリカ諸国、中東の国々での殉教；インドや中国でのキリスト者に対する暴力的迫害があります。この殉教者たちの感動的なあかしは、私たちに信仰の代価を思い起こさせてくれます。

この信仰年の四旬節に、特に私たちの時代の殉教者たちを思い起こすことはできないでしょうか？ 信仰年の四旬節に行われる十字架の道行で、彼らについて知り、一留ごとに記念するようお勧めしたいと思います！

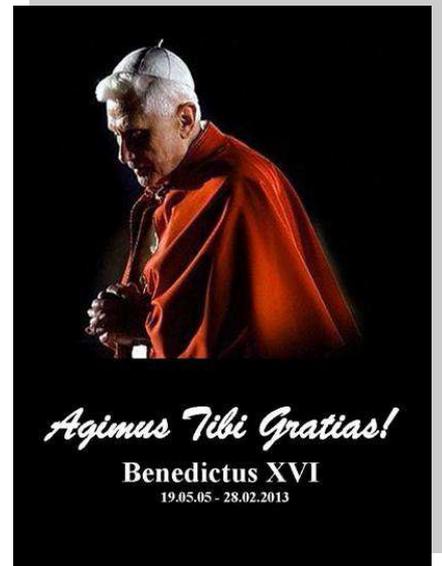
Václav Clement
宣教師顧問
ヴァツラフ・クレメンテ神父

私たちは 建設主ではなく、 労働者

ここに紹介する文は、米国サギノーのケネス・アンテナー司教がオスカル・ロメロ大司教の殉教記念日のため、黙想として書いたものです。（ロメロ司教の言葉として紹介されることがありますが、そうではありません。）この文は、私たちが祈りを込めて感謝する、「主のぶどう園の取るに足りない働き手」ベネディクト十六世の人柄にもよく当てはまります。

▲ 歩下がり、遠く広く目を向けることも時折、役に立つ。

神の国は、私たちの努力の彼方にあるだけでなく、私たちのまなざしの彼方にあるのだ。
私たちは生涯のあいだに神のみわざである壮大な事業の、ほんのわずかな一部分だけを成し遂げるのだ。私たちのすることで完璧なことなどない。それは、神の国が、いつも私たちを超えているということだ。
すべてを語り尽くす声明などない。
私たちの信仰を完全に表す祈りなどない。完徳をもたらす痛悔の告白などなく、人を完全に回復させる司牧訪問もない。
いかなる計画も、教会の使命を成就させることはできない。
数々の目標や目的を掲げても、それがすべてではない。
私たちはこのような存在だ。私たちは、いつか芽を出す種を植える。私たちは、植えられた種に水をやる、種が明日の約束を内に秘めていることを知りつつ。
私たちは、さらに発展の必要な土台をすえる。
私たちは、自分たちの力をはるかに超える効果を生み出すパン種を、仕込む。
私たちにすべてのことはできない、そのことに気づくとき自由になる。
だから、何かができる、とても良く行うことができる。
不完全かもしれない、でもそれは始まり
道りを行く一歩、主の恵みが介入し
すべてを成し遂げてくださる機会となる。
最終的な結果を私たちが見ることはないかもしれない、けれどもそれは建設主と労働者の違い。
私たちは労働者であって、建設主ではない、
救いに仕える者であって、救い主ではない。
私たちは、自分のものではない未来の、預言者なのだ



Video

アンゴラ管区長フィリベルト・ロドリゲス・マルティン神父へのインタビュー（英語字幕あり）
vimeo: <https://vimeo.com/59569155>



私はプロジェクト・アフリカの実り……オセアニアへの贈りもの

私 宣教師としての私の召命の芽生えは、私の家族の中にあります。父と母は、私にとって愛徳と信仰の生きた模範です。子どものころ、主日の福音を暗記しようと頑張ったのを思い出します。日曜学校で、仲間の前で福音の話を演じるのに選ばれたからです。家に帰ると、ミサで聞いた祈りを再現しようと友人たちと競い合いました。ある日、私たちは母に見つかり、厳しくそれを禁じられてしまいました。私は母の言いつけを守りましたが、司祭になりたいという望みは私の中で燃え続けました。中学校を卒業した私は願書を出し、志願者としてサレジオ会に受け入れられました。このころ、霊的指導者と院長に、宣教師になりたいという自分の望みを打ち明けることを決心し、二人とも祈るようにと私を励ましてくれました。

若いサレジオ会員として、私の宣教師の召命はより具体的に育まれていきました。少年たちに教える使徒的体験をするために私は難民キャンプに送られました。ある暑い日のことでした。私は子どもたちと一緒にいたのですが、疲れていて、遊びに加わらずにいました。一人の少年がやって来て私の隣に座りました。しばしの沈黙の後で、その子が言いました。「ブラザー、悲しいと感じるのは、神様が何をくれなかったからだと思う?」と彼は尋ねました。私はその質問に答えられず、逆に君はどう思うのと聞き返しました。その子は突然、泣き出しました。その後、彼は、前に兵士だったこと、その体験が彼をととても苦しめていることを分かち合ってくれました。少年たちがとうとう自国に帰る日が来たとき、彼らは一緒に行こうと私を誘ってくれました。この体験は、繰り返し私の脳裡によみがえりました。夏の休暇の後で、私はこの体験と自分の望みについて霊的指導者と院長に話しました。二人は識別を助けてくれました。最終的に私は宣教師志願の手紙を書き、総長は私をパプア・ニューギニアに派遣しました。

「アフリカの私たちはまだ宣教師が必要なのに、どうして海外へ行くの?」と多くの人に聞かれます。確かに、アフリカには宣教師が必要です。しかし、実際に、私の出身管区はたくさんの宣教師に恵まれてきました。プロジェクト・アフリカの宣教師たちの犠牲のおかげで、サレジオのカリスマは今、豊かに花開いています。今、その最初の実りを、たとえ少なくとも、分かち合う時が来ていると私は思っています。きっと神様はさらに多くの実りをもって私たちを祝福してください。

パプア・ニューギニアの温かく迎えてくれる人々の中に派遣されて、私は本当に幸せです。オセアニアのこれほど多くの島々が、信仰において成長するのを助けてくれる宣教師という賜物を待っていることに、私は感嘆をおぼえます。初めは、私にとって楽ではありませんでした。食べ物や文化などは、私にとって衝撃的な体験でした。眠れぬ夜を幾度過ごしたことでしょ! ローマでの宣教師研修コースのおかげで、カルチャー・ショックに心理的に備えることができ、今後自分が出会うことについても現実的になれることを感謝します。また、霊的指導者のおかげで、別の視点から自分の置かれている新たな状況を見るように助けられました。私たち宣教師がこの地で、サレジオのカリスマを豊かに花開かせることができますように。もしかするといつの日か、パプア・ニューギニアから宣教師が生まれるようになり、ひょっとするとアフリカへ派遣されるかもしれません!



ケニア出身、パプア・ニューギニアの宣教師
スティーヴン・ムスヤ・マスウィリ神学生

アフリカに宣教師を求む

管区-国	言語	環境、必要とされている資質
AET エチオピア	英語、地元の言語	2000年設立の使徒座代牧区。会員数は非常に少ない。第一次福音宣教の大きな機会。
AFC コンゴ民主共和国	仏語、地元の言語	サレジオ会宣教の2世紀目を開始。第一次福音宣教の地域。
MOZ モザンビーク	ポルトガル語、地元の言語	第一次福音宣教の必要な広い地域。管区は広がっているが人材が必要。技術・職業訓練を教えることのできる会員(修道士)を求む。
ZMB ザンビア、ジンバブエ、マラウィ、ナミビア	英語、地元の言語	前線で働く宣教師。管区は広がっているが、管轄する4か国で必要な人材が足りない。



サレジオ会の宣教の意向

南米サウスコーン地域、特にブラジルのサレジオ会のため

リオデジャネイロの世界青年大会を準備するブラジル諸管区の会員たちが、サレジオ会の奉獻生活をより真実な、目に見える、信頼に足る、実り豊かなものとすることができますように。

WYD世界青年大会(リオデジャネイロ、2013年7月23-28日)はブラジルのサレジオ会のため、召命促進の貴重な機会になります:ドン・ボスコの使徒的計画を忠実に生き、リオデジャネイロの世界青年大会に参加する若者たちにあかきすることによって、WYDを準備すること。そうすることで私たちは、より真実な生き方をするようになります。忠実に、喜びをもってサレジオ会員としての奉獻の召命をあかしするとき、私たちの生き方は特に若者にとって魅力的な、心を奪うものになるでしょう。そして新たな召命を豊かにもたらすでしょう。ブラジルの全6管区は、さまざまなレベルでWYD2013の準備にたずさわっています。

